

「激甚災害に衛星リモートセンシングで立ち向かう」

【主催】: 一般社団法人日本写真測量学会、一般社団法人日本リモートセンシング学会

【共催】: 一般社団法人地理情報システム学会

● 開催日時: 2020年11月24日(火)～12月27日(日) オンデマンド配信 (測量CPD(3ポイント)対象)

上記の期間、G 空間 EXPO2020 公式 HP(講演・シンポジウム) <https://www.g-expo.jp/2020/symposium/video.html>にて、本シンポジウムの講演動画をご視聴いただけます。

プログラムは、下記のとおりです。ご視聴後は是非、アンケート回答へのご協力をお願いいたします。

また、本シンポジウムは、測量 CPD ポイント(3 ポイント)の対象となります。動画の全視聴 および アンケートのご提出の両方をもって、ポイントの申請を行うことができます。アンケート用紙、および CPD の申請方法は [こちら](#) をご覧ください。

【趣旨】

近年、我が国は極端な気象現象による激甚災害に毎年、それも複数回にわたって襲われ続けている。昨年(2019年)は8月の台風10号と九州北部豪雨、9月の台風15号、10月の台風19号と立て続けに豪雨、暴風雨に見舞われ、記録的な人的被害、物的被害をもたらした。本年も7月に九州が梅雨前線に伴う記録的豪雨に襲われ、河川の氾濫や斜面災害により80名を超える人命が失われている。気候変動の影響も鑑みると、今後もこのような激甚気象災害の多発が予見されると思われる。

こうした危機的な状況も受けて、衛星リモートセンシングに関わる機関も、災害対応に関して様々な取り組みを行ってきている。例えば、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期の課題として、「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」が選定され、その中で「被災状況解析・共有システム開発」テーマとして、各種衛星の観測計画を立案する技術や、観測データを一元化し解析や予測を行ってデータを迅速に提供する技術が開発されている。また、日本リモートセンシング学会は、日本学術会議のもと防災減災をテーマに取り組む防災学術連携体に参加し、シンポジウム等で衛星リモートセンシングの活用例と有効性を発信している。

本シンポジウムでは、このような衛星リモートセンシングを活用した最近の災害対応の取り組みと事例を紹介することで、今後のあるべき対応方策等について展望を得ることを目的とする。

	講演タイトル	講演者	時間
0	開会のご挨拶	赤松幸生 (一社)日本写真測量学会	3分43秒
【取り組みに関する情報】			
1	「SIP第2期 国家レジリエンス(防災・減災)の強化の概要」	堀宗朗 (国研)海洋研究開発機構(SIP第2期PD)	19分50秒
2	「衛星データ等即時共有システムと被災状況解析・予測技術の開発」	六川修一 東京大学(SIP第2期衛星テーマ研究代表者)	22分06秒
3	「防災機関による衛星データの活用」	田口仁 (国研)防災科学研究所(SIP第2期社会実装責任者)	23分31秒
4	「防災における環境観測衛星の役割」	岩崎晃 東京大学(SIP第2期SPD)	9分41秒
【各機関の災害対応事例】			
5	「株式会社パスコの災害対応事例」 ～衛星リモートセンシングによる土砂災害の早期把握～	下村博之 (株)パスコ	16分49秒
6	「国際航業の災害対応事例」 ～「SIP第2期国家レジリエンス(防災・減災)の強化」を中心として～	虫明成生 国際航業(株)	14分47秒
7	「宇宙からの極端気象の観測と将来予測」	可知美佐子 (国研)宇宙航空研究開発機構(JAXA)	15分37秒
8	「だいち2号による災害監視の現状と課題」	古田竜一 (一財)リモート・センシング技術センター	19分16秒
9	「日本発の衛星データプラットフォーム Tellus(テールス)について」	鈴木仁志 さくらインターネット(株)	15分01秒

(合計)2時間40分21秒